

つても、勉強し、職場復帰したいと望んでいる。

(5回生)

いけばなと私

鈴木友子

私が自分でも思いがけず、他人様にいけばなの手ほどきをするようになってそろそろ十年たとうとしています。高一の時からはじめたいけばな、そしてたゞ趣味として楽しんできたものが、その後の自分の中でこんなにも大きな部分を占めるようになって我ながら驚いております。そしてこれまでに成ったのは本当に先生方や皆様の暖いお励ましによるものであることを思い、月並の言葉ながら、深い感謝の念で一杯です。

自宅で教えたりお稽古をしたりしますが、この約十年間私の中心となっていますのは作楽会のいけばな教室です。作楽会というのは附属高校の同窓会で、桜蔭会館のお隣りです。そこでは、草月会の田口是庭先生が主に指導しておられます。大学生から還暦すぎの方まで、時には外人の方の飛入のお稽古まであります。

何と言ってもやりがいのあるのが年一回の展覧会、勉強会でしょうか。たった一日か二日、約五十点の作品を見ていただくだけでも、半年位前から準備に入ります。そして一回毎の会のことが、いけばな教室の足跡であり、そのまま私の年輪です。会の運営にはこの頃慣れてきましたが、段々苦しさを増すのが自分の作品です。

昨年はじめて鉄の作品をつくり、それに「憧」という題をつけ、現在横浜のさる所に飾ってあります。いわゆる生の花のいけばな、石骨を使った年、白樺を組んだ作品「にらめっこ」、アルミ板で作った「舞」・「聴く」、鉄の「憧」と今製作中の鉄の第二作。何と言葉で説明するよりも、ここに写真をのせられないのが残念です。作品は、自分の知っている私より、より雄弁に私を物語るらしいです。生の花は本当に美しく、いけばなを知らなくとも一輪さしてあってもその場の空気が変わります。しかし、アルミや鉄が美しいと、主観的にも客観的にも感じられる作品になるには本当に大変な苦しみです。

現在月に一度、家元勅使河原蒼風先生に教えていただきます。家元は私の名前も御存知らない筈ですが、そのお稽古で賞められると有頂天になる位うれしく、御注意を受けるといつまでも悲しいです。その時集る全国からの生徒達の真剣さ、又家元の何気ない話に、泉が枯れない元気を得ます。もしかするとこれは自慢話になってしまいますが、一昨年秋、父の病氣中に、回復の見通しがつき、やっとおはながいけられる心になった時、そして父さえ生きていればあとは不足は言いまいという時

でした。家から榎柳とうどの実と柿を持って行って生けて見ていただきました。その時家元は「これにはいけばなの心がある、今晚はこの作品を肴にしてお酒をのもう」と言われました。きっとこの事はいつまでも私の支えになりそうです。

今年の新年会で今一番おはなをいけていて困ることという質問を受けました。いけばなはこわいほどその人が出ます。たとえ立場は生徒であっても、技術的には未熟であっても何とも言えず良いいけばながいけられているのを見る時、この道の速さを想います。やさしいおはな、楽しいおはな、まるやかなおはな、なごやかなおはな、相手を受入れるお花。今すぐとは言いませんが誠実なだけの私のおはながもう一息唱いたいと思うのです。たとえ声は小さく低くともなるべくよい声で。

これまで田口先生というよき師に恵まれ、数多くのよき弟子に恵まれて順調な道を歩ませていただきました。今後は一層きびしい試練の道でしょう。私の生活の中でいけばなの占める割合が大きくなったり小さくなったりその時々で変化するでしょうが、その時その時で精一杯の努力をしたいと思っています。

いけばなの魅力は何ですかと聞かれたら「まあ一度なさってごらんなさい」としか言えません、いけばなと私との出会い、人生にはふしぎな道が開けるものです。 (7回生)

四人のとしごと暮す日々

土 橋 香奈子

むかし、式先生が「女子の学校は弟子が育たないからつまらないですよ。」と嘆いていらした。学問を志すと思いきや、卒業すれば、ほいほい結婚して、地理学よさようなら、というのでは…云々。傍らで渡辺先生が「いや、女はおヨメさんになって子供を産まなきゃいけませんよ。」と学問よりも女の道を説いていらした。

以来十年、渡辺先生の感化がより強かったのかどうか、四才をかしらに四人の子持ちとなって、お茶の水地理の編集委員からも、学術論文に非ずして、「子供との明け暮れ」を所望される身と相なった。一時代前ならば、四人の子供など当たり前、というよりむしろ少ないぐらいなのに、少数精鋭主義の昨今では、近隣の注目を浴びて、大いに羨ましがられ、内心は呆れられ、「もう少しの辛抱だからしっかりしなさいよ。」と励まされ、幾人かには、「お宅はカトリックですか。」と尋ねられ、さらには、「家族計画の御相談に参りました。」と何やらの押売りのおばさんまで登場するに及んで、いったい肩身が広いのか、狭いのかこの混乱した頭では判断がつかねる状態となった。

子供は四才、三才、もうじき二才、それに八ヶ月の赤ん坊で、年が接近しているため良く遊びも